

私は、原発の被害者だと思っています。  
 私達 郡山市民の被害は 郡山が避難者を受け入れて  
 いるせいか、安全だと思われているようです。  
 けし、決り 数値は低くはなっています。  
 もはや、安全な数値など どうでもいいです。  
 平常値が 0.04~0.06 だという事実で話して欲しいです。

子ども達の生活を しっかりと不安に思っているのに、  
 息子が高校受験を控えて 大事な年であることから  
 思い切った 避難に踏み切ることがあります。  
 予備はしていますが、郡山は まだ安全なところという情報に  
 飛びついて 自分も情けなく思っています。

郡山に住むからには 覚悟を決めておきたいから、  
 出来る予防を 実施してからの生活です。

息子には 都立をやめよう、外遊びの制限、例として  
 マスクや長袖、長ズボンの着用、車での送迎。  
 娘には 徒歩通学をやめさせ 毎日の車での送迎です。  
 今年 6年生になる 娘は 学校の集団登校で 班長として、  
 下級生を世話をしていって 楽しんでいました。  
 下校も同じ、友達と 1時間以上もかけて、おしゃべりして  
 から帰っていた時間を どれも大事にしていました。  
 泣く泣く どちらも出来ずあります。

子ども達は、どうしても危機感が少なくて、このような  
 制限が 親の都合に思えるようでは、納得する中で  
 意見の対立し、家の雰囲気もギスギスした時期も  
 ありました。

学校給食や中食していても出来れば口にして欲しい  
 といふほど自分だけ他の子と違うのは嫌だと。  
 弁当や水筒の持ち物を拒むほど。子ども頃から  
 人目を気にする、説得するのはとても難しいです。

子供達を

どんなに頑張っても制限しきれない部分は  
 一時期でも郡山から離れることでしか補いついて  
 考えています。

父親の仕事柄、転校を繰り返した子ども達は、

一人だけ転校する寂しさを知っています。

だからと、一人だけの転校ではなく集団疎開を  
 強く望みます。

一刻も早い集団疎開の実現に努めるようお願い  
 毎日です。

6月29日

郡山

